



小樽市立奥沢小学校 令和4年度 学校経営方針

1. 統合までの経緯

本校は、入船小学校、天神小学校と平成30年4月に学校統合し、その折、新たな学校の教育目標を策定し、新しい学校づくりを目指した。

統合奥沢小学校の学校イメージを話し合った際に出されたキーワードに「夢をはぐくむ」という言葉があった。統合して新しい学校になることは、決してマイナスではなく、新しい学校は社会や世界へとつながり、未来へと続く夢が生まれる場所であってほしい、という思いが共有された。そこで、学校の教育目標を設定するにあたり、「夢をはぐくむ」という大きなテーマを設定した上で、「知」「徳」「体」のバランスが取れた人間形成をめざそうと考えた。どれかに偏ることなく、バランスのとれた「知勇兼備」をめざすことを念頭に学校づくりを進めていく。「知」では、「知識・技能」に加え、それをどう使うかという「思考力・判断力・表現力」が求められる。そのために、深く学び、自他の考えを互いに伝えあうことができる子どもの育成を目指す。

新しい学校に期待することで一番多かった回答が「なかのいい学校」であった。「徳」では、自他の命を尊重するやさしい心を持ち、なかよく高め合う関係を築く子どもの育成を目指す。

そして、「知」を生かすことも、「徳」を働かせることも、「体」の裏付けがなければできない。全ての教育活動の基盤として、たくましい体と、最後までやり抜く心をもつ子どもの育成を目指す。

「夢をはぐくむ奥沢小学校」で学ぶことにより、自立した人間として広い視野を持ち、理想を実現しようとする高い志や意欲をもって、主体的に学びに向かい、必要な情報を判断し、自ら知識を深めて個性や能力を伸ばして、人生を切り拓いていく人間、対話や議論を通じて多様な人々と協働できる人間、そして変化の激しい社会の中でも、よりよい人生や社会の在り方を考え、課題を発見し、解決につなげていくことができる人間、そんな人間の育成を目指す。

2. 教育目標

夢をはぐくむ 奥沢小学校

深く学び 伝えあう子 (知)

なかよく やさしい子 (徳)

たくましく やりぬく子 (体)

3. 学校の教育目標の具体化（目指す子どもの姿）

目指す		知 深く学び 伝えあう子	徳 なかよく やさしい子	体 たくましく やりぬく子
子どもの姿		自ら進んで学び、考え判断し、表現できる子ども	あいさつをしっかりとし、互いのよさを認め合い助け合う子ども	健康や安全に気をつけ、進んで運動し、最後まで粘り強く取り組む子ども
向陽中学校 目指す生徒像		●自分の良さを知り、自ら学び続ける生徒（知） ●感謝の気持ちと規範意識を持ち、正しい判断ができる生徒（徳） ●健康・安全に努め、自ら挑戦する生徒（体）		
価値		自主性、思考力、創造力、向上心、探求心、創意工夫、積極性、意欲、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力	生命尊重、思いやり、寛容、公共心、自然愛、郷土愛、人間愛、協調性、規範意識、国際理解、責任感、公正公平	健康安全、基本的な生活習慣、明朗快活、整理整頓、根気強さ、忍耐力、意志力、向上心、勤労意欲、責任感、自主性、努力
低学年 （慣れる）	特徴	幼児期からの自己中心性が残る時期であり、児童の思考も具体的で、論理的・抽象的な思考は未成熟である。対人関係も行動範囲が狭く、家庭・学校が中心で集団行動にも未熟な時期である。この時期に集団生活に慣れさせ、集団で行動するための様々な行動様式を身に付けさせることが重要である。また、低学年の後半になると、集団生活における自他との関係を認識することができ、社会性の発達を促す指導が必要である。		
	指標	基礎・基本を身に付け、話をしっかりと聞き、自分の考えを表現したり、互いに学びあうことができる。	学校生活のきまりを知り、友だちと仲良くし、助け合うことができる。	健康や安全に気をつけ、運動を楽しみ、規則正しい生活ができる。自分がやらなければならないことを行うことができる。
中学年 （伸ばす）	特徴	少年少女期に入り、集団生活が急速に活発になり、身近な人々の人間関係もわかり自己反省もできるようになる。また、仲間との行動を通して、遊びや生活のルールを決め守るようになる。この時期には、集団生活の中で自己を伸ばすことが重要である。		
	指標	基礎・基本を確実に身に付けるとともに、友だちと協力し、認め合いながら、自分の思いや考えを表現したり学びあったりすることができる。	学校生活のきまりや地域のルールを知り、友だちと互いに理解し合い、信頼し、助け合うことができる。	健康や安全を意識しながら運動習慣を身につけ、節度ある生活を行うことができる。自分でやろうと決めたことは、積極的に取り組み、粘り強くやり遂げることができる。
高学年 （高める）	特徴	自分の行動は自分で決めようとする自律的傾向が強くなってきたり、社会性や情緒面の発達も著しくなる。また、所属集団における自己の役割や責任も自覚するようになるが、集団の質が望ましいものでない場合、反社会的行動へと傾向が表れてくる。この時期には、児童の個性を伸ばし、自己存在感を与え、有用感、成就感を持って自ら励むための力を身に付けさせてやることが重要である。		
	指標	基礎・基本を確実に身に付け、自分の考えを深め、意欲をもって学び合い、自他の関わりを通して高めあうことができる。	学校生活や社会のルールを身につけ、互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲良く協力し助け合うことができる。	健康や安全面から自分の生活を見直し、運動習慣や基本的な生活習慣を考え、生活することができる。より高い目標を立て、勇気と希望をもって努力を続けることができる。

4. 学校経営の基本的な考え方

人工知能等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられる社会、Society5.0の時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続」と言えるほど、劇的に変わる状況が生じつつある。また、児童一人一台端末環境の整備等が進み、学校現場においても新たな対応が必要になる。このように急激に変化する時代だからこそ、子どもたち一人一人に「生きる力」を確実に育てて行かなければならない。そのためには不易と流行をしっかりと見極め、新しい学校の生活様式を基盤にICTを積極的に活用し、すべての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と、「協働的な学び」とを一体的に充実させることを目指す。また、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と地域で共有し、「社会に開かれた教育課程」を目指し、学校の組織を十分に機能させ、コミュニティ・スクールや小中一貫教育の充実等を図り、社会の変化を見据えた新たな学びへと進化を続ける。

5. 重点教育目標

【 みんな笑顔でぽっかぽか 進んで行動 おくさわの子 】

6. 今年度のめざす具体的な子ども像 ※設定理由：別紙

- (1) 自ら行動するためには、興味・関心や見通しをもたせること、意図的・計画的に場を設定するとともに、価値付け、よさを実感させることが必要である。ほめる・認める・価値づける

自ら学び、自ら表現（あいさつ）する。

- (2) みんなが笑顔になるためには、子どもたち一人一人が認められていることを実感させ、自己肯定感を高めることが必要である。ほめる・認める・価値づける

自分のよさを発揮し、お互いに認め合い、ねばり強く取り組む。

7. 目指す学校像と教師像

学校像	教師像
○学校を開き、新たな時代に対応し、保護者や地域に信頼される学校	○子どもを認め、一人一人のよさを引き出すことのできる教師
◆安心・安全・信頼 ◆組織的・協働的・機動的（感染症対応） ◆ICT等の環境整備・積極的活用 ◆教育の質の向上 ※業務のスリム化、効率化、教科担任制等 ◆小中一貫教育の推進	◆教育公務員としての自覚、責任 ◆ほめる、認める、価値づける姿勢 ◆厳しく毅然とした態度 ◆積極的な研修会への参加 ◆3月の具体的な子ども像をイメージした学級経営の推進

8. 学校経営の重点

組織が機能する 持続可能な「奥沢スタイル」の確立

キーワード

ほめる・認める・価値づける

そろえる

連携

- (1) 子どもが主役の学校づくり

ほめる・認める・価値づける

そろえる

子どもたち一人一人が自分のよさを実感するとともに、お互いのよさを認め合って、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を目指して高め合う学校づくりを進める。

- ①一人一人が自己肯定感を高め、自信をもって自ら行動したり、仲間と関わったりすることのできる教育活動を意図的・計画的に行う。

- ② 6（9）年間を見通した「奥沢スタイル」の確立と実践を徹底する。※「奥沢スタイル」は別紙
- ③ 児童の実態を捉え、「主体的・対話的で深い学び」を意識し、指導内容、指導体制、指導方法の工夫・改善を図る。※ タブレット、デジタル教科書等の積極的活用

(2) 家庭・地域・中学校と連携する学校づくり 連 携

家庭・地域・中学校と連携を強化し、子どもたちに必要な資質・能力を育む。

- ① 学校だよりや HP、安心メール、アンケート、授業参観、保護者会等による積極的な情報発信、情報交換に努める。
- ② 学校運営協議会や学校支援ボランティアを活性化し、コミュニティ・スクールを推進する。
- ③ 9 年間で子どもを育てることを念頭に、学習面、生徒指導面等、小中一貫教育を推進する。

(3) 教職員が協働し、保護者や地域の信頼に応える学校づくり そろえる 連 携

全職員の学校経営参画意識と協働意識を高めるとともに、個々の力量の向上を図りながら、それぞれの職務において研鑽を重ねて保護者や地域の信頼に応える学校づくりを進める。

- ① 学級・学年経営を基盤としながら協働意識を高め、分掌組織等、校内組織の機能化を図る。
- ② 公開研究会の開催等、校内研究の活性化とともに、各種研修会等に積極的に参加し、資質・能力の向上に努める。
- ③ 働き方改革に取り組み、持続可能な質の高い教育の実現に向けて、業務のスリム化、効率化を目指す。※ 高学年の授業交換
- ④ 新型コロナウイルス感染症対策を継続して行う。

9. 具体的な取組（小樽市教育推進計画との関連）

(1) 未来を創る力の育成

施策項目	数値目標・取組
1 確かな学力の育成	数値目標：算数・国語がわかると回答する児童の割合を 85%以上
① 授業改善の推進 ② 学力調査の実施と有効活用 ③ 授業以外の学びの場の設定 ④ 学習習慣の確立 ⑤ タブレット等の有効活用	① 「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の視点を意識した課題解決型の授業の積極的な導入 （授業の指導過程の統一、学習規律の徹底指導など、奥沢スタイルの確立） ① 算数科を柱とした校内研修の充実 ② 各種テストや調査による実態把握と、それを元にした個に応じた指導を通した基礎学力の向上（学力向上改善プランに基づく取組） ③ 朝や放課後、長期休業中を活用した補充学習の推進 ④ 音読カードの活用・「家庭学習のてびき」の作成・配布等保護者との連携 ⑤ タブレット、デジタル教科書、実物投影機等、ICT 機器の積極的活用
2 特別支援教育の充実	数値目標：全教職員による児童の実態交流を年 3 回以上行う。
① 教育的ニーズに応じた特別支援教育の実施 ② 校内組織の活性化、関係機関との連携	① 個別の指導計画、支援計画の整備と活用 ① UD（ユニバーサルデザイン）を意識した教室の環境づくり ② 校内支援委員会の活性化、関係機関との連携、教育相談の実施等
3 国際理解教育の充実	数値目標：外国語（活動）が好きと回答する児童の割合 85%以上
① 外国語科、外国語活動の充実	① 退職等外部人材・向陽中学校教諭（ALT）の有効活用
4 理数教育の充実	数値目標：算数が好きと回答する児童の割合 85%以上
① 算数科における個に応じた指導の充実 ② 専科教諭による指導の充実	① 校内研修と連携した指導方法の改善、個に応じた指導の充実 ① 習熟度別少人数指導の充実 ② 理科専科教諭による理科教育の推進
5 情報教育の充実	数値目標：情報モラル教室を全学年で実施
① 情報モラル教育の推進 ② プログラミング教育の推進	① 情報モラル教室等の実施及び保護者への啓発活動 ② 理科・算数・総合的な時間の学習等を活用したプログラミング的

	思考の育成
6 キャリア教育の充実	数値目標：学年における外部講師や地域施設の活用100%
①キャリア教育の推進	①外部講師や地域の施設等を活用したキャリア教育の推進

家庭、地域にお願いする取組

- 生活リズムの確立（生活リズムチェックシート等）
- 家庭学習（宿題）のサポート

- 家庭学習習慣づくりのサポート
- 放課後や長期休業中等の学習支援

学習支援ボランティアへの登録

(2) 豊かな心の育成

施策項目	数値目標・取組
1 道徳教育の充実	数値目標：「友だちのよいところを見つけよう」としていると回答する児童の割合85%以上
①道徳科の授業の充実	①「考え 議論する道徳」の授業づくり ①道徳教育推進教師を中心とした指導計画の作成と評価、指導方法等の研修
②人権教育の推進	②体験活動や人権教室、情報モラル教室等を活用した教育の推進
2 ふるさと教育の推進	数値目標：外部講師や地域の施設等を活用したふるさと小樽に関する教育を全学年で行う。
①ふるさと教育の推進	①「わたしたちの小樽」「小樽の歴史」等の活用 ①ガラス制作体験、屋形船乗船体験の推進 ①地域の施設、人材・素材、外部講師などの活用
3 読書活動の推進	数値目標：読書を全くしない児童の割合を20%以下にする。(R3全国調査による平均24%)
①朝読書・読み聞かせ等の推進	①読書習慣の育成 (朝読書、読み聞かせ、音読、並行読書、図書貸出活動など)
②市立図書館・図書ボランティアとの連携	②図書館環境の整備と読書活動の充実 (市立図書館・図書ボランティアとの連携、司書の活用)
4 体験活動の推進	数値目標：ボランティア活動や体験活動を全学年で行う。
①自然体験活動の推進	①「おたる自然の村」と連携した体験学習の実施と地域の公園等の有効活用
②教育施設・資源を活用した体験学習の推進	②市立博物館や水族館等の活用、地産志食体験等の推進
③ボランティア活動の推進	③校舎外清掃（グラウンド）、募金活動等、ボランティア活動の実施
5 コミュニケーション能力の育成	数値目標：対話を意識した授業づくりをしていると回答する教師の割合80%以上
①各教科等における言語活動の充実	①あいさつの徹底指導 ①意図的・計画的な表現の場づくり ①「対話」を重視した授業づくりの推進
6 いじめの防止や不登校児童の支援の充実	数値目標：「いじめは、どんなことがあってもいけないこと」の肯定的に回答する児童の割合100%
①いじめ・不登校への対応	①小樽市の取組と連携したいじめ防止キャンペーンの実施（「ほっと」の活用・アンケート調査・標語づくり・あいさつ運動など） ①教育相談の充実及びSC・SSW等、関係機関との連携

家庭、地域にお願いする取組

- 音読カードへの協力、家庭での読書習慣の確立
- 「おたるスマート7」の活用
- 親子での体験活動の実施

- 親子での学校や地域行事への積極的な参加
- 図書ボランティアへの積極的な参加

図書ボランティアへの登録

(3) 健やかな体の育成

施策項目	数値目標・取組
1 体力・運動能力の向上	数値目標：体育が好きと回答する児童の割合を95%以上にする。

①児童の実態把握と授業改善	①新体力・運動能力テストの実施 ①体力向上改善プランに基づいた授業改善や体力向上の取組の推進 ①長期休業中のチャレンジタイムの実施
2 食育の推進	数値目標：朝食を食べてこない児童の割合を0%にする。
①望ましい食習慣の育成	①食に関する正しい知識と望ましい食習慣の育成 ①栄養教諭や外部人材を活用した食育の実践 ①知産後食の取組
3 健康教育の充実	数値目標：早寝・早起き・朝ごはんなど、基本的な生活習慣が身についていると回答する保護者の割合85%以上
①健康保持・増進への指導の充実	①保護者と連携した基本的な生活習慣の育成 ①発達段階に即した健康教育の実施 (性や薬物に関する継続した指導や感染症への適切な知識の習得) ①アレルギー対応等の情報共有

家庭、地域にお願いする取組

- 生活リズムの確立（生活リズムチェックシート等）
- 家庭での運動習慣の確立
- うがい・手洗い・マスク着用の習慣化
- 適切な服装等の指導（体育の時間や季節を意識）

- 運動会等への積極的参加
- スキー学習・水泳学習への支援

学習支援ボランティアへの登録

(4) 家庭・地域との連携・協働の推進

施策項目	数値目標・取組
1 家庭教育支援の充実	数値目標：生活リズムチェックシートを2回以上活用する。
①家庭と連携した望ましい生活習慣の確立	①望ましい生活習慣や学習習慣の確立のための啓発活動 ①生活リズムチェックシートの活用
2 学校と地域の連携・協働の推進	数値目標：学校支援ボランティアの活用を10回以上にする。
①積極的な情報発信 ②コミュニティ・スクールの推進	①保護者・地域への情報公開の促進（学校だより、HP、地域公開日など） ②学校運営協議会の開催・運営 ②学校支援ボランティア組織づくりと推進

(5) 学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現

施策項目	数値目標・取組
1 校段階間の連携・接続の推進	数値目標：向陽中学校の公開研へ全教職員が参加する。
①小中一貫教育の推進 ②幼稚園・保育園との連携	①向陽中学校との乗り入れ授業やお互いの研究会への参加等、相互交流の推進 ②幼保との引継等を含めた連携の強化
2 教育環境の整備・充実	数値目標：タブレット等、ICT機器を積極的に活用していると回答する職員の割合80%以上
①教室の環境整備	①教室や特別教室の整理整頓 ①タブレット、デジタル教科書等に関する研修会への積極的参加
3 教職員の資質・能力の向上	数値目標：全教職員が校外の研修会、研究会に参加する。
①服務規律の保持 ②各種研修の充実	①服務規律の徹底（体罰防止や個人情報保護など、教育公務員としての自覚と責任） ②各種公開研や研修会等への参加と還元の継続
4 学校運営の改善	数値目標：学校経営の改善に対する教職員の肯定的回答率70%以上
①勤務時間を意識した働き方改革の推進 ②業務のスリム化・効率化	①ICカードによる勤務時間の実態把握と改善 ①月4回の定時退勤日の設定 ①長期休業中の閉庁日設定 ①留守番電話の導入（7:30~18:00） ②GSの有効活用 ②行事の見直しや学校運営組織及び運営方法の更なる改善

5 学校安全教育の充実	数値目標：各種訓練を年4回以上行う。
①安全教育の徹底 ②防犯・防災教室の実施	①新型コロナウイルス感染症等、感染症対策の取組 ①登下校及び校内生活における安全指導の徹底と安全教育の充実 ①校内・校区内の危険個所の実態把握 ②関係機関と連携した各種訓練の実施 （火災や地震の訓練、集団下校訓練、不審者対応訓練等） ※安心メールの有効活用

家庭、地域にお願いする取組

- 登下校における安全ボランティアへの協力
- 子ども110番への協力

安全ボランティアへの登録